

RID 2780

茅ヶ崎ロータリークラブ週報

2022-2023 年度テーマ



イマジン
ロータリー

Painted by Kenzo Tanaka

第 63 代会長 中山富貴子

第 63 代幹事 富田 桂司

〔事務局〕 〒253-0044 茅ヶ崎市新栄町 13-29 茅ヶ崎商工会議所 3 階 TEL : 0467-83-6060 FAX : 0467-83-9915

メール : c3rc@io.ocn.ne.jp 〔例会場〕 〒253-0073 茅ヶ崎市中島 1341 コルティール茅ヶ崎 TEL : 0467-87-0002

2023 年 6 月 8 日(木) 第3018回例会 天候:晴れ 司会:安武 勝副幹事 No. 43

＝本日の例会行事＝

- ◇歌唱 「我等の生業」 「覇気あれ我クラブ」 ◇現次年度ガバナー補佐挨拶
- ◇会長挨拶 ◇幹事報告 ◇委員会報告 [吉田会員]
- ◇卓話 ゲストスピーカー 長谷川 權様 『夏こそ俳句』

◎ゲスト・ビジター紹介

長谷川 權様 (ゲストスピーカー) 笹川 徹様 (東京世田谷 RC パスト会長) 大友 敬様 (東京世田谷 RC パスト会長) 洪 崇富様 (東京世田谷 RC 次年度幹事) 市川恵美子様 (浜松 RC) 當間安弘様 (ガバナー補佐・茅ヶ崎中央 RC) 伊澤敏典様 (次年度ガバナー補佐・茅ヶ崎湘南 RC) 山本義治様 (次年度ガバナー補佐幹事・茅ヶ崎湘南 RC)

◎現次年度ガバナー補佐挨拶

2022-2023 年度ガバナー補佐・當間安弘様

2023-2024 年度ガバナー補佐・伊澤敏典様

◎幹事報告

◆ガバナー事務所より

◆ガバナー補佐より ◇第 14 回会長・幹事会 議事録

◆イノベーションゲートウェイ湘南 RC より 認証式祝賀会ご参列への御礼状

◎委員会報告

吉田会員：国際大会での折鶴の意義

安武副幹事：6/15 植栽の確認、次年度委員会計画書未提出の委員長への確認

スマイル報告 水嶋 聡会員

當間安弘様 (2780 地区第 4 グループ AG 茅ヶ崎中央 RC) ガバナー補佐としての一年がまもなく終わります。力不足で中山会長に支えていただきながらの一年でしたが、精一杯できることはさせていただきました。7 月からも、引き続きご指導を賜ればとお願い申し上げます。次年度、伊澤ガバナー補佐と共に、杉本会長が茅ヶ崎 RC らしい一年間を作ってくださいますこと祈念申し上げます。

伊澤敏典様 (次年度 2780 地区第 4 グループ AG 茅ヶ崎湘南 RC)・山本義治様 (同 AG 幹事 茅ヶ崎湘南 RC) 茅ヶ崎 RC の皆様、一年間どうぞよろしくお願い致します。

洪 宗富様 (東京世田谷 RC 次年度幹事) 本日茅ヶ崎ロータリークラブにメーキャップさせていただき、本当に嬉しく思います。3 月 15 日の 60 周年記念式典に貴クラブより大勢の方にご参加いただき、感謝申し上げます。これからもよろしくお願い申し上げます。

笹川 徹様 (東京世田谷 RC パスト会長) 先日の 60 周年記念祝賀会に御参加いただきまして、ありがとうございました。



左から次年度テーマバナーを掲げる中山会長、當間安弘現ガバナー補佐、伊澤敏典次年度ガバナー補佐、山本義治同幹事、委員会報告の吉田会員

出席報告 横山 貢会員

日時	回	現会員	計算会員	出席	MU済	欠席	暫定出席率	修正出席率
6/8	3018	44	42	32	2	8	80.95%	
5/25	3016	44	41+2	27	3+6	7	69.77%	83.72%

大友 敬様（東京世田谷 RC パスト会長）3月15日の60周年記念式典の際はご出席いただき、ありがとうございました。7月17日の海岸清掃の際にまた伺わせていただきます。冷えたビール楽しみにしてます。

市川恵美子様（浜松 RC）小田原北 RC 在籍時に 2780 地区で田中 PG、中山会長にはたいへんお世話になりました。茅ヶ崎 RC にお伺いすることができ、うれしい限りです。

中山富貴子君 & 富田桂司君 長谷川権先生、本日は卓話をどうぞよろしくお願い申し上げます。東京世田谷 RC 笹川様、大友様、洪様、浜松 RC 市川様ようこそお越しくださいました。今年度ガバナー補佐・當間様、大変お世話になりました。次年度ガバナー補佐・伊澤様、補佐幹事・山本様、どうぞよろしくお願い申し上げます。

田中賢三君 浜松の市川様はじめ、大勢のお客様ようこそいらっしゃいました。大歓迎です。當間 AG、一年間大変お世話になり、有難うございました。伊澤次年度 G、これからよろしくお願い申し上げます。本日例会後、クラブ研修委員会です。よろしくお願いします。

成田栄二君 ゲストスピーカーの長谷川様、卓話よろしくお願いします。世田谷 RC の笹川様、大友様、洪様、浜松 RC の市川様ようこそ！當間 AG 一年間お疲れ様でした。伊澤次年度 AG、山本 AG 幹事、次年度よろしくお願いします。

山口利通君 多数のお客様ようこそ。本日はご出席ありがとうございます。熱烈歓迎致します。

和田幸男君 當間ガバナー補佐、1年間お疲れ様でした。伊澤次年度ガバナー補佐、よろしくお願いします。ゲスト・ビジターの皆様、ようこそいらっしゃいました。

吉田恵子君 ガバナー補佐、世田谷ロータリーの皆様ようこそ。長谷川様、卓話たのしみにしております。浜松の市川さんようこそ。茅ヶ崎をたのしんでいて下さい。

澤邑重夫君 とてもたくさんのお客様ようこそ。長谷川さん、卓話よろしくお願いいたします。さて、ある神社の鳥居まで行って、手前でそばを食べて、日本酒とバナナビールを飲んで帰ったところ、帰りの列車が運休となり、1日足止めをくらって、それなりに大変でした。バチが当たったのでしょうか。浜降祭の清掃で帳消しにできるでしょうか。

岩澤あゆみ君 友好クラブの笹川様、大友様、洪様、浜松 RC の市川様、本日はようこそお越しくださいました。當間 AG、1年半本当にお疲れ様でした。大変お世話になりました。次年度の伊澤 AG、山本 AG 幹事、来年もよろしくお願いします。笹川パスト会長にお孫さんが誕生し、おじいちゃんになられたそうです。おめでとうございます。

杉田祐一君 ゲストの皆様、ようこそいらっしゃいました。當間 AG、1年間大変お世話になりました。ありがとうございました。伊澤 AG エレクト、山本 AG 幹事エレクト、次年度どうぞよろしくお願いいたします。長谷川様、卓話を拝聴させていただきます！

杉本剛昭君 ゲスト・ビジターのみなさまようこそお越しくださいました。當間 AG 一年間お疲れ様でした。伊澤 AGE、一年間よろしくお願いいたします。長谷川様、卓話拝聴できることを楽しみにしております。

木村信一君 長谷川様本日はお話楽しみです。ゲスト・ビジターの皆様いらっしゃいませ。お楽しみ下さい。

橋本正一君 ゲスト・ビジターの皆さんこんにちは。長谷川さん卓話大変楽しみです。

安武 勝君 ゲスト・ビジターのみなさま、今年度・次年度ガバナー補佐・幹事ようこそおいいただきありがとうございます。長谷川権様、卓話よろしくお願いします。

平賀裕祥君 ゲスト・ビジターの皆様いらっしゃいませ。ガバナー補佐の方々どうぞよろしくお願いします。

宇野雅仁君 ゲスト・ビジターの長谷川様、笹川様、大友様、洪様、市川様、當間様、伊澤様、山本様、ようこそいらっしゃいました。

水嶋 聡君 皆様に幸有れ！

[本日 23 件、43,000 円です]



左上) 細井ソングリーダー 左下) ゲストスピーカーの長谷川権様 右上から横山・木村信一・水嶋・安武の各会員

★長谷川権様の卓話は別紙に掲載致します★



RID 2780

茅ヶ崎ロータリークラブ週報

2022-2023 年度テーマ



イマジン
ロータリー

painted by Kenzo Tanaka

第 63 代会長 中山富貴子

第 63 代幹事 富田 桂司

〔事務局〕 〒253-0044 茅ヶ崎市新栄町 13-29 茅ヶ崎商工会議所 3 階 TEL : 0467-83-6060 FAX : 0467-83-9915

メール : c3rc@io.ocn.ne.jp 〔例会場〕 〒253-0073 茅ヶ崎市中島 1341 コルディーレ茅ヶ崎 TEL : 0467-87-0002

2023 年 6 月 8 日(木) 第3018回例会

卓話 長谷川 權様『夏こそ俳句』

俳人 1954 年 2 月 20 日生まれ 熊本県出身
東京大学卒業後、読売新聞社を経てプロの俳人に。朝日
俳壇選者、ロータリーの友俳壇選者、ネット歳時記「き
ごさい」代表、俳句結社「古志」前主宰、東海大学文芸
創作学科特任教授、神奈川近代文学館副館長。著作多数

皆さんこんにちは、長谷川と申します。俳句をやっております、ロータリー俳壇の撰者もながらやっております。皆さんの中には投句なさっても一度も選ばれたことがないという方もいらっしゃるかもしれませんが... 本日は俳句について 30 分お話をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

ちょうど梅雨になろうとしています。日本は季節が巡るんですね。四季というものがあって、日本の中で暮らしていると全く当たり前のことで、世界中の人がこういう季節の変化を享受しているんだろうと思ってしまいます。ところが、実は世界中眺めても、日本のように四季がハッキリしている国というのは極めて少ないですね。そういう国ですので、日本文化とは何かと、いろいろ言われますけど、まあ「季節の文化」であると答えておくと、大体間違いがありません。要するに四季が生み出す様々なものを生活や様々な社会のジャンルの中に取り入れて、我々は二千年近くやってきたとお考えになればよいのかと思います。

先程、(会場監督の) 木村さんが自作の即興の俳句「先寝るぞ 安らかにねと母が言う」を発表されましたが、これに季語が加わっていると尚よかったですね。季語というのは季節を表す言葉なんです、この前角川書店で作った大歳時記には 6,000 くらい載っています。その中で三つだけ代表的な季語があります。その三つ、おわかりになりますか？ それは「雪月花」で、春の「花」、桜ですね。秋の「月」、冬の「雪」になります。だから雪月花というのが、日本の文化を代表する三つのもの、先ほど申し上げたように、季語の代表と言うことになるわけですね。皆さん不思議に思わないですか？ 夏の季語がありませんよね？

夏に代表的な季語がない理由は、梅雨が来て、じめじめして、それがようやく明けると蒸し暑い日が続きますので、大変暮らしにくい、暑苦しくて嫌だということです。日本列島はモンスーン地帯にありまして、夏は北からの季節風と南からの季節風がぶつかって、最終的には南の太平洋高気圧が日本中を覆ってしまいます。梅雨の間にじっとりと水を含んだ大地がものすごい蒸気を発するわけです。我々はこの高温多湿の気候の中で秋風が吹き出すまで暮らします。ですので、春の桜や秋の月のように楽しめるものが夏にはない、ということなんですね。その結果、もっと突き詰めて言えば、夏をどう乗り越えるか、いかにして涼しさを表現するか、その工夫が日本文化を作り出してきたと言えるのです。何百年も前に兼好法師っていうお坊さんが『徒然草』の中で家の作り方って言うかどうかの夏をあを中心に考えなきゃいけないということを書いているわけで「家の作り様は、夏を旨とすべし」と記しています。家の作り方は夏を中心に考えなきゃいけないということです。これは家とか庭だけの問題ではなく、日本の衣食住全般について言えることですね。

うちの置いてある家もたくさんありますね。夏祭りとかでうちわを配ることもあります。我々はこれは風を起こして涼むためにある道具だと思ってるでしょ。ところが、これはちょっと違ってまして。もともとうちわは中国、もっと辿っていくとエジプト辺りから伝わってきまして、暑さをしのぐものではなくて、虫よけなんです。例えば、偉い人、エジプトの王様とか中国の皇帝のそばにいる人が大きなうちわで仰いで虫が逃げないようにしたものなんです。それが日本に伝わってきた途端に風を起こして、涼しさを呼ぶというふうになってしまう。これが日本人の文化の作り方の根本にある「うちわ方式」というもので、日本の文化と外国からいろんなものを中に招き入れて、それをこの蒸し暑い風土の中で、どういうふうにしたら涼しくなるか改良を加えてゆくわけです。



別の例でいうと、風鈴もそうです。軒先に下げて置いて風が吹くとチリンと鳴って涼しいなあと。実はこれは昔々仏教が伝わってきた時に仏教建築、つまりお寺と一緒に日本に伝わってきたものであります。奈良・京都辺りの大きなお寺に行きますと、お堂の屋根の四隅に下がっているものがあるんですね。それは風鐸と呼ばれるものですが、それは魔除けに使うんです。風が吹くとカランカランと鳴るわけで、その音に驚いてそういう悪いものたちが逃げていく。何年も前ですが、奈良の大仏さんの東大寺には裏の小道があって、突然夕立がやってきて、嵐になりました。雨宿りしていると、どこからかカランカランと音がするんですね。なんだと思ったら、東大寺の四隅に今も風鐸が下げられていて、それが鳴っていたんですね。あれが日本に入ってきて、今の風鈴、涼しさと呼ぶ道具に姿を変えていったわけです。だから、「うちわ方式」とか「風鈴方式」とかは、外国の文化を日本の風土に合わせて形を変えたものなんですね。

食べ物で言うと、皆さんも大好きな肉じゃがですね。これって、何で味付けをしますか？そうですね、醤油です。実はこの肉じゃがも外国起源なんです。ところが、外国には醤油がありませんよね。では、もともとどんな料理だったのでしょうか。これはビーフシチューだったんですね。ビーフシチューが明治時代に伝わってきた時に、ああいうデミグラスみたいなソースが日本では作れない。それで、その日本の料理人たちはお醤油で味付けをした。これが肉じゃがの起源です。醤油で味付けをすることで、こってりしたものにはならず、サラッとした味になるので、夏でも食べられるというわけです。和食ももとを辿っていけば、中華料理やフランス料理に行き着いたりもするのですが、日本の暑い季節でも食べていけるように、さらっとした味付けを工夫したのです。

もっと身近なものを一つ挙げましょう。皆さんがご覧になっている紙も漢字とかなで書かれていますよね。二千年遡ると、日本にはもともと文字は存在していませんでした。話し言葉はあるんだけど、それを書き留める文字がなかった。そこに中国から漢字が伝わってきて、それを文字として採用したのが、つい 1,600 年くらい前のことです。万葉集は一音一音に漢字をあてて書かれていました。そのやり方が奈良・平安のはじめまでずっと続いていましたが、ある時物凄い天才が現れて漢字からひらがなを作るんですね。漢字を取り崩したものに変わっていく。これによって、日本の文字っていうのがガラッと変わるわけで、もし全部漢字だったら、中国語みたいですよ。中国は乾燥地帯だから、漢字を毎日眺めていてもそんなに暑さは感じないでしょうが、

日本で全部漢字だったら暑くてしょうがない。そこにひらがな書きが生まれて、和歌やら手紙を書くということになると、文字の環境が随分涼しくなったのかと。

外国から伝わったものを日本人の暮らし、つまり高温多湿の気候の中で、暑苦しくならないように作り変えたものがほとんどだということです。実は今日お話する俳句もその中で生まれてきたものであります。

俳句というのは 17 音、17 拍とも言いますが、五七五しかない。世界でおそらく一番短い、リズムを持った定型詩ですね。じゃあ何故こんな短い詩がこの日本で生まれたかって考えてみるのが大事で、暑い文化の中で生まれてきたわけですから、なんかそれとかかわりがあるだろうと思うわけですね。そうするとその言葉とは何か、俳句を作っている言葉ってのは一体なんなのかと考えると、気持ちを表す、人と人とのコミュニケーション、つまり心と心を結ぶのが言葉であるということなんですね。その点を考えると、言葉って実に暑苦しいものだということになるわけですね。人と人がその肌を接するっていうのは、日本のしめじ文化の中では、ほとんどタブーみたいなもので、だからできるだけ離れて、みんな暮らしてるわけですね。それなのに、その心と心を結びつける言葉っていうのは、体と体を触れ合うよりも、もっと暑苦しい感じです。そうするとですね、言葉っていうのはできるだけ短い方が良いて話になる。それで、日本の進化のあの歴史を眺めると、だんだんだんだん短くなって。万葉集では長歌といって永遠に続く詩があるんですが、それが江戸時代ぐらになると本当に短い 17 拍の詩に変わっていくわけです。しかも、その短い中にいろんな切れ・切れ字というものもあって、短い俳句を更に切り刻んでゆくという形をとっているわけです。ですから、その短い短いその言葉のいろんなところに、切り刻んだことによって空白が生まれる。それを“間”といって、俳句以外のいろんなところに使うでしょう。“間”を置いて話す、“間”が悪い、“間”抜けであるとか。基本的には何かと何かの間っていうことを表していて、日本ではこの“間”をわかっていることが大事で、それを“空気”とも言います。“空気”っていうのは要するに“間”のことで、“空気”を読むということが日本文化ではいかに大事か。言葉になってない文字で書いてない“空気”を読んで、その“空気”に逆らわないようにするか、“空気”を逆撫でするようなことをするかは、その人の選択によるわけですが。

“空気”を読むことは日本文化・日本人の中で生きていくためには大事ですね。外国の人は全部言葉で言うから、これはなかなか困難な状況の中に投げ込まれてしまうわけです。我々挨拶するときにお辞儀しますね。お辞儀するだけで終わりと言ってもいいですね。欧米では握手したりハグ、場合によってはキスしたりといった接触をします。しかし、日本人はそういう挨拶に耐えられないわけですね。お互いに近寄らないで頭を下げるわけだから、頭を下げるためにある程度空間が必要になります。やはり“間”が要るわけですよ。“間”を取った上での挨拶の仕方を日本人は昔から考えていて、身体も心も触れ合わない。お互いの“間”を読み合う。これが行き過ぎると“付度”になるわけです。付度も一

つの日本の文化なんですけれども、場合により行き過ぎることもあるということは知っておかねばなりません。

では最後に涼しさを詠んだ句をいくつかご紹介しましょう。

【涼しさの俳句】

- ・此あたり目に見ゆるものは皆涼し（芭蕉）

名古屋か岐阜辺りの家を訪ねた際、涼しさを真正面から詠んだ句で、涼しさは誉め言葉なんですね。なので、強いて挙げるとすれば、「涼」は夏の代表的な季語だと言えるでしょう。

- ・夏立つや衣桁にかはる風の色（也有）

也有は江戸時代の人です。立夏は5月の子どもの日のあたりで、今年は5月4日でした。衣桁というのは着物を掛けておくもので、そこに掛ける着物の色が春の藍物から夏の単衣物に変わるのを、「かはる風の色」と詠んでいるのが、上手く、面白いですね。

- ・涼風の曲がりくねって来たりけり（一茶）

一茶は長野の出身ですが、いろいろな事情から若い頃江戸に出たことがありました。その生活を思い出して作った句で、郷里の長野なら風も真っ直ぐに吹くところが、江戸では入り組んだ長屋を抜けて、ようやく自分のところに風が届くという句です。

- ・どの子にも涼しく風の吹く日かな（龍太）

飯田龍太は山梨の俳人で、この句は「どの子にも涼しい風が吹いて欲しいなあ」という願いのような句ですね。昨今の世界情勢のように、食べる物にも困っている子ども、命を落とす子どももいますので、どういった子にも涼しい風が吹いて欲しいという気持ちを詠んだものかと思います。

- ・教室を草原と思ふ昼寝かな（權）

学校の授業中に教室を草原だと思って昼寝をしている様子を詠んだものです。昼寝は夏の季語で、これは私が中学2年の時に詠んだ句です。今思うと、こういう子だったのかなあという気がします。

お話を聞いていただき、ありがとうございました。



松尾芭蕉 江戸時代前期の俳諧師。滑稽や諧謔を主としていた俳諧を、蕉風と呼ばれる芸術性の極めて高い句風として確立し、後世では俳聖として世界的にも知られる、日本史上最高の俳諧師の一人。代表作『奥の細道』。

横井也有 江戸時代中期の俳諧師。代表作に『鶉衣』。少肉多菜・少酒多果・少車多歩・少欲多施・少衣多浴・少煩多眠・少言多行・少塩多酢・少食多嗜・少憤多笑 という健康十訓を提唱したことで知られる。



小林一茶 江戸時代後期の俳諧師。俗化著しかった当時の俳壇の中にあつて独自の「一茶調」と呼ばれる作風を確立。52歳にして結婚を果たしたが、初婚の妻との間の4人の子どもは全て夭折し、妻にも先立たれた。再婚相手との結婚生活は早々に破綻し、身体的には中風の発作を繰り返し、64歳の時に3度目の結婚をするものの、65歳で亡くなる数カ月前には火事で自宅を焼失するなど、後半生も不幸続きの人生であった。代表作に『おらが春』。



飯田龍太 父は高浜虚子に師事し、山梨の風土に根差した句を多く詠んだことで知られる飯田蛇笏。蛇笏同様に、山梨の自然風土を愛して俳句を詠んだ。山梨の大自然や、そこでの暮らしについて、しなやかで繊細な感性で格調高く詠んだ句を多く残す。山梨文学館の創設など、地元の文化振興にも大きな業績を残し、平成19年(2007年)86歳で亡くなった。代表作に『百戸の谿』。

